

「銅鏡とまつりー弥生・古墳時代における鏡の役割についてー」

平成 29 年 6 月 17 日

公益財団法人かながわ考古学財団 岸本泰緒子

《概要》

銅鏡といえば考古学では三角縁神獣鏡が有名ですが、今回は鏡という器物そのものの普遍的な役割、意味に焦点を当ててみたいと思います。まずは中国における鏡の起源にさかのぼり、鏡がその誕生時から持っていた役割を探ります。それから舞台を弥生・古墳時代の日本に移し、当時の時代背景とともに、なぜ銅鏡が日本で普及したのか、どのように使われたかを考えます。最後に神奈川県内の出土事例をいくつかご紹介いたします。

1. 鏡とは？銅鏡とは？

(1) 青銅製の鏡

- ・青銅＝銅＋錫 「銅鏡」は歴史用語・通称
- ・一般的な銅鏡の成分比率 銅 7 割・錫 2～3 割・鉛 1 割弱
比較 十円玉：銅 95% 亜鉛 4-3% 錫 1-2%
- ・明治時代にガラス鏡の製法が確立されるまでの間は、銅鏡が使用されていた

(2) 鏡の機能

- ①実用的機能：姿見
- ②呪術的機能：魔除け（辟邪）・媒介（依り代）
- ③政治的機能：威信財★¹

2. 銅鏡の始まりと中国での発達、そして拡散

(1) 東アジアにおける銅鏡の出現

- ・中国最古の鏡は紀元前 2,000 年頃の齐家文化（中国西北の青海省・甘肅省）小形で薄いものが多いことから、姿見ではなく呪術的な用途であったか【図 1】
- ・出現期銅鏡は太陽を示すような文様が多い 太陽信仰、反射、発光、発火

(2) 実用品としての銅鏡の普及

- ・「鑑」という名前の青銅製容器 水を張り姿見として使用した

- ・戦国時代後期に急速に普及が進んだ（出土数の急激な増加）
→冠位制度が整備され、官人が身だしなみを整える必要があった
- ・男女問わず使用された【図 2】
- ・大型の実用品と小型の魔除け鏡の使い分けがあった
- ・中国における鏡の大量副葬：玉璧ぎよくへきの代用品として【図 3】
玉製の璧は大変貴重だったので、滑石製璧・ガラス璧・銅鏡が代用されることがあった

(3) 中国国外への拡散

- ・前漢武帝の時期（紀元前 141-87 年）は、漢の版図が最大となった時期であり、またそれに重なるようにして中国の周辺地域にまで銅鏡が波及した時期【図 4】
- ・南越国（中国南部～ベトナム北部）・西北（シルクロード河西回廊あたり）・モンゴル・シベリア・朝鮮半島・日本列島（弥生時代）など

3. 日本における銅鏡

(1) 弥生時代の銅鏡

- ・紀元前 2 世紀頃に朝鮮半島～中国東北部製の多鈕鏡が日本列島に登場
- ・紀元前 1 世紀頃に中国製の前漢鏡（異体字銘帯鏡・草葉紋鏡など）
- ・当初は朝鮮半島・中国からもたらされた銅鏡を使用していたが、すぐに国産鏡（倣製鏡ほうせいきょう*2）を作り始める【図 5】
- ・主に墓への副葬品*3として出土し、特に北部九州では大量副葬が見られる

(2) 古墳時代の銅鏡

- ・主に古墳への副葬品として、また集落や祭祀遺跡からも出土する
- ・中国の後漢～三国、六朝時代に作られた銅鏡（連弧紋鏡、方格規矩四神鏡など）
- ・倣製鏡も作られ、当初より高い技術で製作された
- ・三角縁神獸鏡は日本の古墳出土鏡のみ 現在約 900 面が出土
→本当に「卑弥呼の銅鏡百枚」は三角縁神獸鏡なのか？
- ・前期古墳では大量副葬が見られる（奈良県黒塚古墳など）【図 6】

(3) 銅鏡が全国に波及した古墳時代とはどのような時代か

- ・西暦 3 世紀中頃～6 世紀
- ・大きなマウンドを持つ墓（古墳）を作っていた時代
- ・弥生時代後期～古墳時代は、現在より気温が低い寒冷期にあり、人の移動・争

- い・神への祈りなどが多く起きた
- ・水田稲作が広まり、首長と農民層により構成された集団が、中小河川流域を領域として生活していた【図 7】
- ・首長居館と多数の農民集落を合わせた農耕共同体を形成
- ・農耕共同体の維持のためには、水の確保や水路など設備の補修が必要
→調整・祭祀をおこなう役割が必要

4. まつりに使われた鏡

(1) 当時のまつりとはどのようなものか

- ・権力者が領土と人民を統括する「政」は神まつりに由来する
- ・古墳時代は「まつりごと」が神まつりに裏打ちされた政事がおこなわれた（領域支配の主張・確認）
- ・祭祀（神まつり）とは、神や精霊に対して、祈願したり慰めなだめたりするための儀礼的行為 その時の物的痕跡が祭祀遺跡（遺構）
- ・神への供物の痕跡が、銅鏡・武具・馬具・装身具・土器・形代（石製祭祀具・ミニチュア土器）
- ・古代日本では神には形がなく、依り代（山・巨岩・峠・港湾・川・井泉など）に下りると観念された

「ちはやぶる 神の^{みさか}御坂に幣奉り ^{ぬさまつ}齋ふいのちは^{いわ}母父が^{おもは}ため」（万葉集）
奈良時代、防人となって東山道を異郷に向かう信濃国の人々の歌
異界に入る際、境界（この場合坂）での通行儀礼

(2) 古墳時代祭祀遺跡 鏡を使用した全国の事例

- ・福岡県沖ノ島（4世紀後半～）【図 8・9】
大陸と海の道との境界でおこなわれた、ヤマト王権による国家的祭祀か古墳時代祭祀の代表例 時期ごとの変遷が分かる
- ・静岡県天白磐座遺跡（古墳時代前期後葉～10世紀）【図 10】

5. 神奈川の事例

- ・神奈川県内出土鏡（弥生～古墳時代） 51面
（うち墓出土 26面、集落出土 11面、祭祀遺跡・河道出土 8面、不明・伝 6面）
- ・相模原市勝坂有鹿谷^{あるかやと}祭祀遺跡【図 11】
：付近にある湧水に対する祭祀跡で、7面の小形の倣製鏡の他、石製祭具や土器などが出土

- ・厚木市戸田小柳遺跡【図 12】
：相模川支流玉川の旧流路から中国製の双頭龍文鏡（破鏡★4）が出土
- ・逗子市池子遺跡群 No.2 地点第 2 号竪穴住居址【図 13】
：古墳時代前期の住居跡から破鏡（後漢～三国鏡か）が出土
- ・小田原市高田南原遺跡第Ⅱ地点【図 14】
：古墳時代前期の河道付近から珠文鏡（倣製鏡）が出土

まとめ

- ・中国では呪術的機能を持って出現したが、実用的機能により普及が進んだ
- ・弥生時代、古墳時代には、実用的機能より呪術的機能が重視された
- ・前方後円墳の終了とともに、銅鏡は一旦使用されなくなる
- ・神奈川では現在多くの調査が進んでいるため、今後の資料増加が期待される

用語説明

- ★1 威信財：権威や威厳を示す持ち物
- ★2 倣製鏡（倭鏡・倣製鏡）：日本で製作された鏡
- ★3 副葬品：葬儀に際して死者とともに埋葬される器物
- ★4 破鏡：割れ口を磨いたり穴を空けたりした、加工のある鏡片

参考文献

- 岡村秀典 2017『鏡が語る古代史』岩波新書（新赤版）1664、岩波書店
- 大阪府立近つ飛鳥博物館 2012『王と首長の神まつりー古墳時代の祭祀と信仰ー』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 57
- 若狭徹 2013『ビジュアル版 古墳時代ガイドブック』シリーズ「遺跡を学ぶ」別冊 04、新泉社

※ここには入手しやすいものを挙げました。図版の出典は、各図版の下に記してあります。



青海省尕馬台出土鏡



河南省殷墟婦好墓出土鏡

図1 中国の出現期銅鏡



図2 中国戦国時代男性の髪型（陝西省秦始皇帝陵兵馬俑）



図3 玉璧

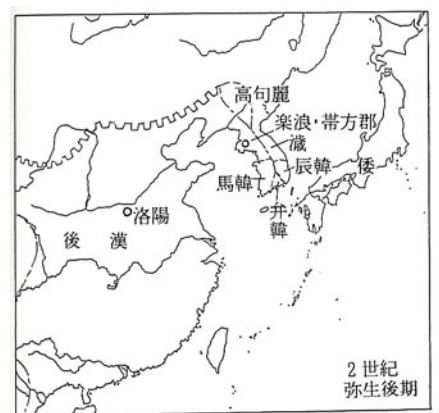


図4 弥生時代の東アジア



伝陝西省北部出土鏡



福岡県北九州市岩屋出土鏡

『古鏡 図録』新潮社、1978年

図5 異体字銘帯鏡と弥生小形倣製鏡



図6 奈良県黒塚古墳



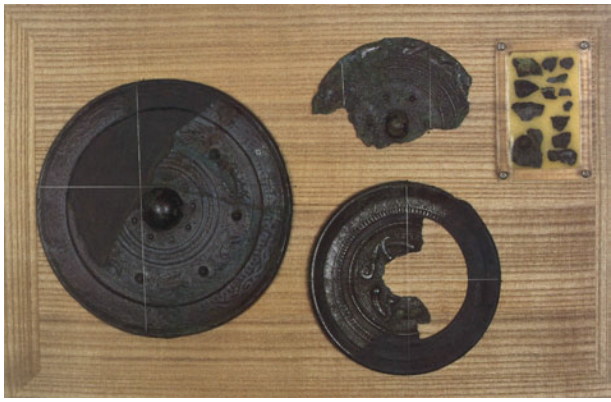
『ビジュアル版 古墳時代ガイドブック』別冊04 新泉社、2013年

図7 古墳時代の景観（群馬県三ツ寺Ⅰ遺跡復元模型）



『王と首長の神まつりー古墳時代の祭祀と信仰』

図8 玄界灘に浮かぶ福岡県沖ノ島と祭祀に使われた石製模造品



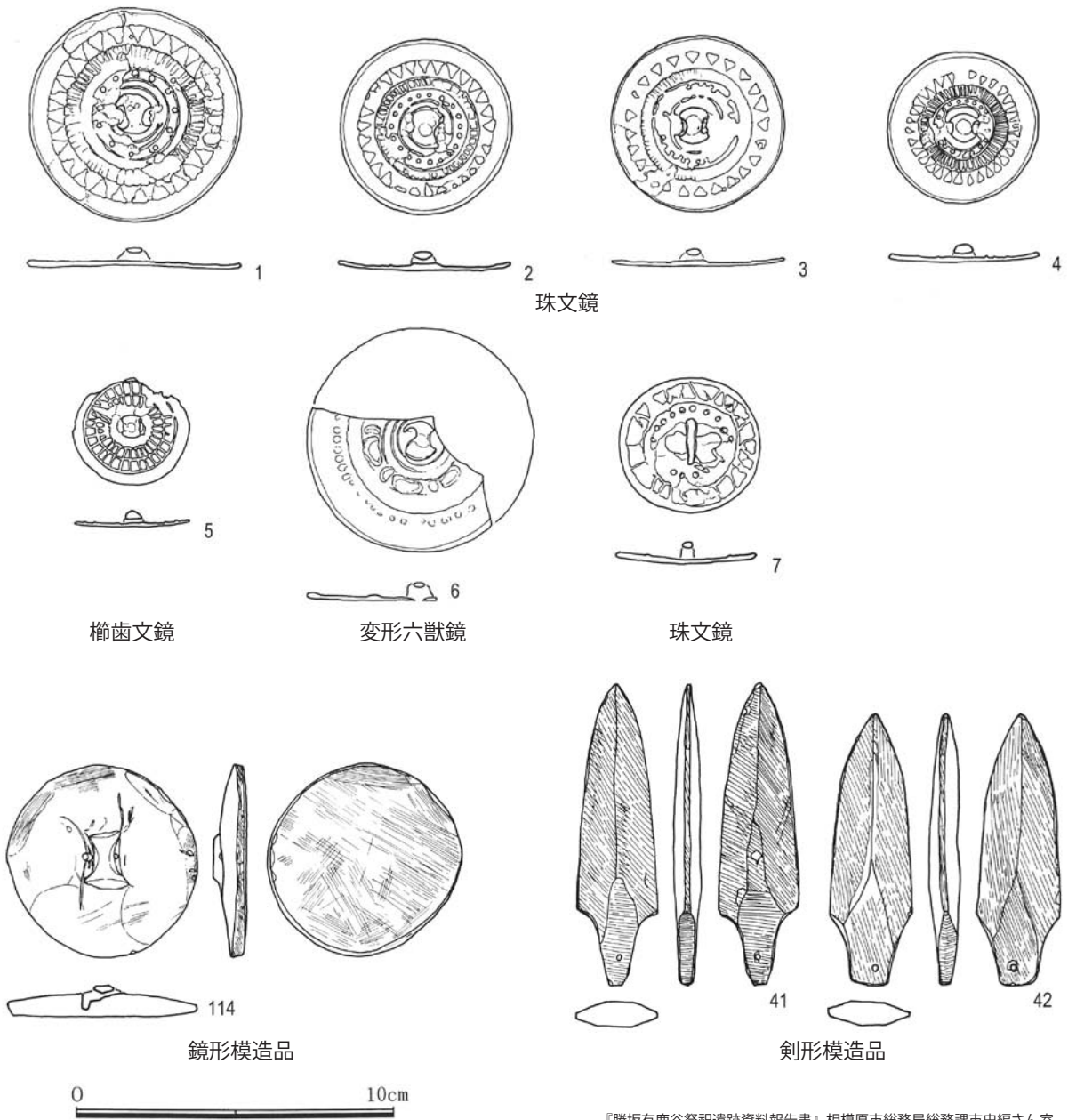
『王と首長の神まつりー古墳時代の祭祀と信仰ー』

図9 沖ノ島出土鏡



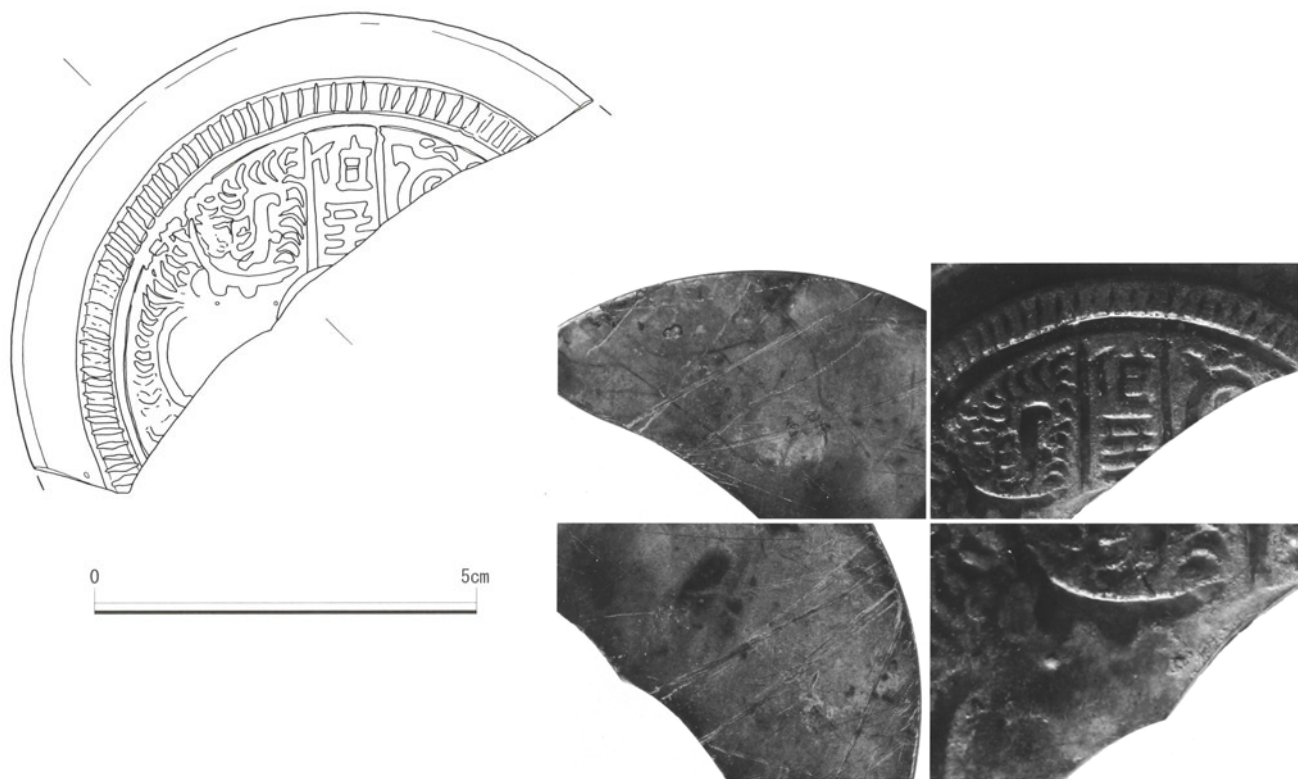
『王と首長の神まつりー古墳時代の祭祀と信仰ー』

図10 静岡県天白磐座遺跡



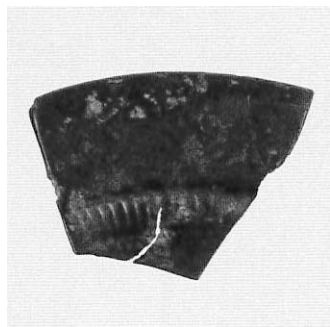
『勝坂有鹿谷祭祀遺跡資料報告書』相模原市総務局総務課市史編さん室、2010年

図11 相模原市勝坂有鹿谷祭祀遺跡出土遺物



『戸田小柳遺跡』公益財団法人かながわ考古学財団、2016年

図12 厚木市戸田小柳遺跡出土 双頭龍文鏡



『古鏡—その神秘のカー—』川崎市市民ミュージアム、2015年

図13 逗子市池子遺跡群出土鏡片



『高田南原遺跡第II地点』財団法人かながわ考古学財団、2006年

図14 小田原市高田南原遺跡出土 珠文鏡